



TOTO

小型電気温水器
湯ぽっとキット
RE06SK型、RE12SK型

1 安全上の注意

安全のために必ずお守りください

取付工事の前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。
この施工説明書では、製品を正しく取り付けていただき、使用者への危害や財産への損害および工事者への危険を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示は、つぎのようになっています。






表 示	意 味
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。




下記に示す内容は、施工説明書や製品に表示して、工事業者の方に安全に正しく製品を取り付けていただくものです。内容をよく理解して正しく取り付けてください。

絵表示	意 味	絵表示	意 味	絵表示	意 味
	一般的な禁止		必ず実行		アースを接続せよ

取付工事完了後、施工説明書に記載の「試運転」にしたがって各部の点検を行い器具のガタつきや漏電・水漏れなど安全上の不具合がないことを確かめてください。

製品に同梱されている「取扱説明書（保証書付）」は、使用者に製品を正しく安全に使用していただくための重要な書類です。紛失したり汚れたりしないように大切に保管し、工事完了後、使用者または建築工事責任者にお渡しください。
なお、保証書には必要事項を必ずご記入ください。

 警告	
 分解禁止	修理技術者以外の人は、この説明書に記載された項目以外は絶対に分解・修理・改造は行わない (感電や故障の原因になります。)
 禁 止	指定する電源以外では使用しない(ヒーターの断線・火災などの原因になります。)
	電源コードの加工(切断・継ぎ足し)を行わない(感電・火災の原因になります。)
	屋内用のため、屋外には設置しない(感電や故障の原因になります。)
 風呂シャワーなど 水場での使用禁止	コードを乱暴に扱ったり、ガタついているコンセントに差し込まない (火災の原因になります。)
	水がかかったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには使用しない (故障、感電の原因になります。)
 必ずアース線を 接続せよ	電気工事は、関連する法令、法規にしたがって必ず「有資格者(電気工事士)」が行い、アース(D種接地工事100Ω以下)工事を行う また、漏電遮断器を取り付ける (誤った工事を行うと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。)

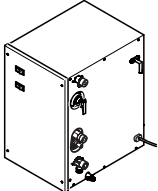
 注意	
 禁 止	タンクが空のときは、絶対に電源スイッチを入れない (空焚きとなり故障や事故の原因になります。)
	水道水以外は、通水しない (井戸水などを通水すると腐食などにより水漏れするおそれがあります。)
	製品に強い力や衝撃を与えない (故障や水漏れの原因になります。)
 必ず実行	給水口に接続する前に必ず、配管内のゴミなどを取り除くため止水栓を開けバケツ2杯(約20L)程度の水を捨てる (フィルターを通ったごみが機器内に入り、故障や水漏れの原因となります。)
	凍結のおそれがある場合は、電源プラグを抜いてタンク内の湯を抜く「18 機器内の水抜き方法」を参照ください。 (凍結破損し水漏れのおそれがあります。)
	必ず連結配管内の水抜きがスムーズにできる勾配で取り付け (凍結した場合、破損し水漏れするおそれがあります。)
	水抜きを行うときは、必ず電源スイッチを「切」にする (空焚きとなり、故障・やけどの原因になります。)
	必ず湯水が混合できる先止水栓を取り付ける (高温の湯が出てやけどの原因になります。)
	フィルター付き止水栓の掃除をする際は、いきなりフィルターふたを緩めず、止水栓を閉めてから行う (水が噴き出して、家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。)

おねがい

- 給水圧力は0.05～0.75MPa（自動水栓およびTOTOリモデアとの接続の場合0.1～0.75MPa）です。
- 必ずフィルター付き止水栓（必要別売品）を取り付けてください。
- 自動水栓と組み合わせて使用の場合は出湯量が少なくなる場合があります。
- シャワー水栓との組み合わせはできません。（十分なシャワー感が得られません）
- 取扱説明書の保証書に、お買い上げ店または、工事店名およびお取付日を必ず記入してください。
- 空焚き、施工上の責任は、当社では、負いかねますので、万一施工上に起因する不都合が生じた場合、貴店の保証規定によって修理していただくようお願いいたします。
- コンセントは、接地用端子の付いた接地極付コンセントを取り付けてください。


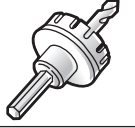
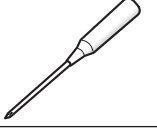


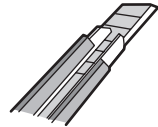

2 部品の確認

施工前に必ず部品を確認してください。

①電気温水器本体	②連結管	③ニップル	④L継手（注1）
	RE06SK・RE12SKの場合 （袋ナット対辺24mm） L=600mm（×3） フレキ管 パッキン（×6）	RE06SK1・RE12SK1の場合 （袋ナット対辺24mm） L=600mm（×1） L=200mm（×1） フレキ管 パッキン（×4）	RE06SK・RE12SKの場合（×2） RE06SK1・RE12SK1の場合（×1） L継手 パッキン
⑤ばね座金（注2）	⑥排水ソケット式	⑦排水トラップ式	
（TOTOオーバルシリーズのみ使用） ばね座金（×2）	袋ナット パッキン 排水ソケット 防臭栓	袋ナット パッキン パッキン Uトラップ Sパイプ	
⑧排水ホッパー式	⑨排水ホース	⑩コードキャップ	
排水ホッパー 膨張水ホース パッキン タッピンねじ（×2）	L=300mm	コードキャップ	
⑪排水ふた一式	⑫固定アングル式	⑬シール（注1）	
排水ふた φ3タッピンねじ（×4）	固定アングル（×1） 両面テープ（×2） φ4タッピンねじ（×2）	シール（×4）	
⑭補強金具一式（注3）	⑮漏水誘導シート	⑯施工説明書	⑰取扱説明書
補強金具 すりわり付き止めねじ φ3タッピンねじ	漏水誘導シート	（本紙）	（保証書付）

注1:RE06SK・RE12SK1には同梱していません 注2:RE06SK1・RE12SK・RE12SK1には同梱していません 注3:RE06SK・RE06SK1には同梱していません

3 準備する工具

電動ドリル	ホルソー	プラスドライバー	袋ナット締付専用治具
			TZ15L TZY15N （別売品） 
ノコギリ	カッター	スパナ	
		 （対辺24mm）	

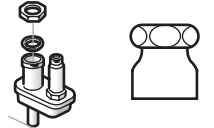
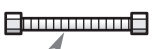
4 洗面化粧台取付可否一覧

湯ぽっとキットを取り付けるための洗面化粧台の条件

- キャビネット内に湯ぽっとキットの設置が可能なスペースがあることを確認していただき、さらに下記の条件をみたしていることを確認してください。

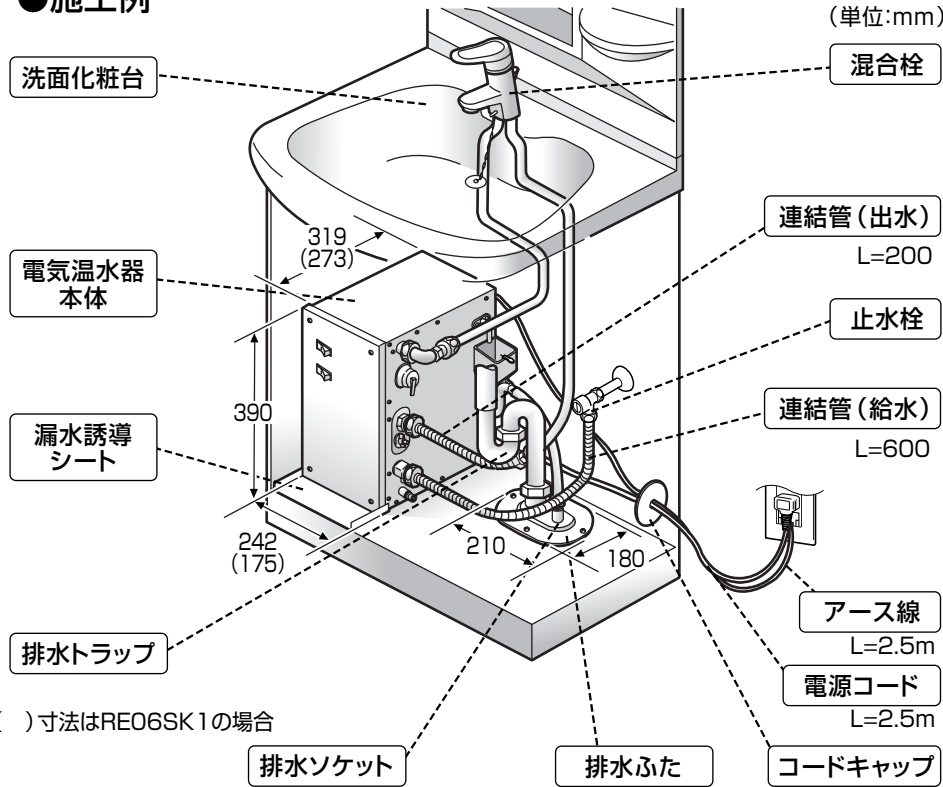
- （1）洗面化粧台の間口が6Lは600mm以上、12Lは750mm以上。
- （2）キャビネット底板上に設置するため、満水時の製品質量に耐える強度が必要です。
キャビネット底板の強度が不足している場合は、底板を補強してください。
- （3）湯水が混合可能な水栓。
 { 単水栓の場合は、混合栓への取り替えが必要になります。
 また、シャンプー水栓は、湯量などの問題で取り付けることができません。 }
- （4）排水トラップが床排水タイプ。（Sトラップφ32mm）
- （5）キャビネットが両開き扉タイプ。

5 別売品一覧

品 名	品 番	数 量	形 状	用 途
排水ソケット	TH500D1	1		集合住宅用 〔一般住宅用にも 使用できます〕
連結管 （L = 850mm）	RHE140	1	（袋ナット対辺24mm）  フレキ管（×1） パッキン（×2）	標準の連結管の長さ （600mm）で足り ない場合に長尺タイ プを用意しています

6 各部の名称・寸法

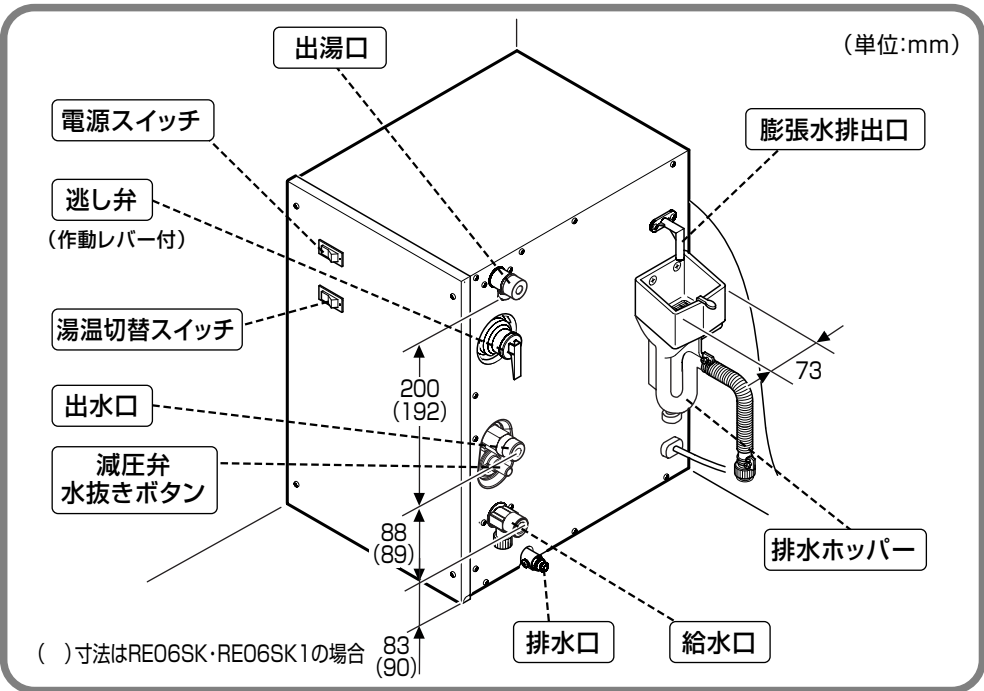
●施工例



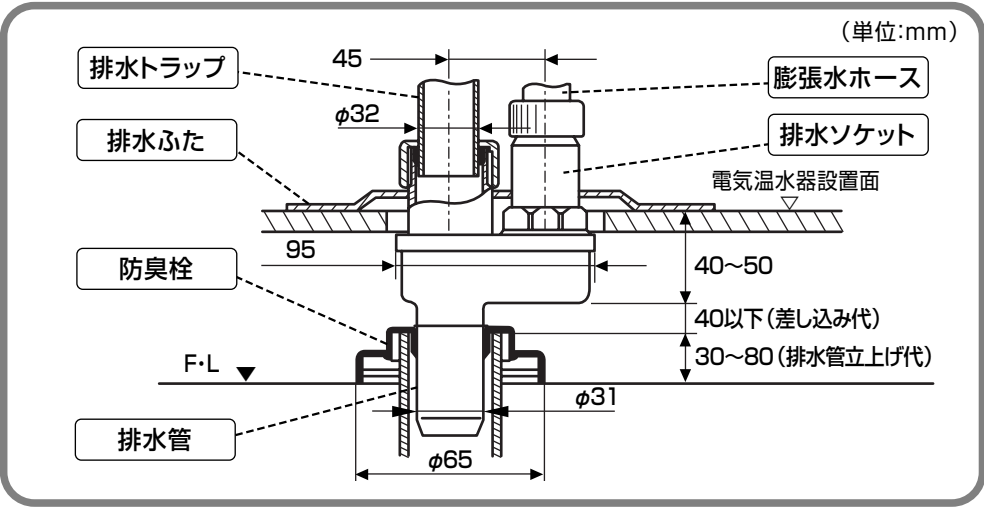
●仕様

項目	機種	RE06SK・RE06SK1	RE12SK・RE12SK1
電圧(50/60Hz)		600W	505W
貯湯量		約6L	約12L
沸き上がり温度		約60℃(約85℃切替可)	
沸き上がり時間 (給水温約15℃)		約30分 (約50分)	約1時間20分 (約2時間)
製品寸法 (幅×奥行×高さ)		175mm×273mm×390mm	242mm×319mm×390mm
製品質量()内は満水時		約6kg(約12kg)	約8kg(約20kg)
給水方式		先止め式(減圧弁・逃し弁内蔵)	
安全装置		温度過昇防止器(手動復帰式バイメタル)	
使用水圧		0.05~0.75MPa	
使用可能雰囲気温度		0~40℃(凍結不可)	

●本体部



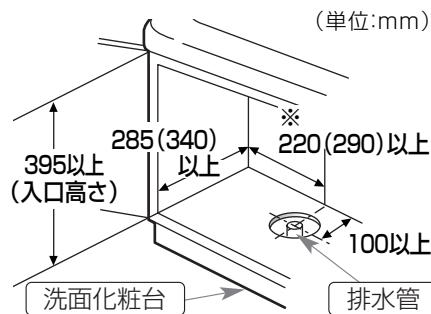
●排水部



7 施工前の確認

1) 設置スペースの確認

湯ぽっとキットの設置には、右記のスペースが必要です。

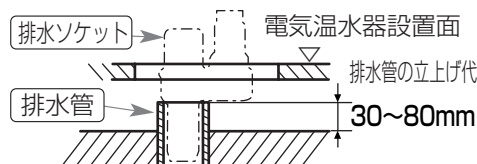


※湯ぽっと横幅+45mm（排水ソケット取り付けに必要なスペース）

※（ ）内の寸法はRE12SKの場合

2) 排水管立上げ代およびスペースの確認

排水ソケットを取り付けるため、排水管の立上げ代および電気温水器設置とのスペースは、下記寸法が必要です。



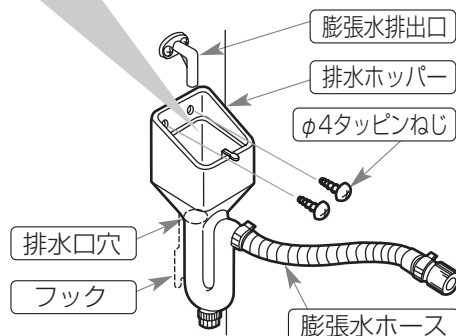
8 前作業

1) 施工前に既設の連結管および排水配管を取り外してください。

2) 排水ホッパーを電気温水器本体に取り付けてください。

注意

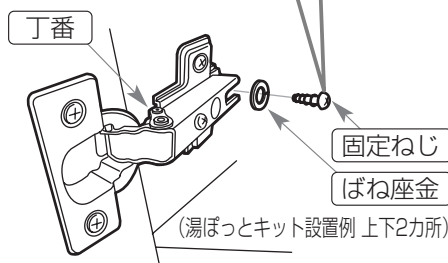
排水ホッパーの排水口穴センターが膨張水排出口のセンターに合うように取り付けてください。



3) TOTOオーバルシリーズに湯ぽっとキットを取り付ける場合、緩み防止のため、洗面化粧台扉の丁番に同梱のばね座金を取り付けてください。（RE06SKの場合）

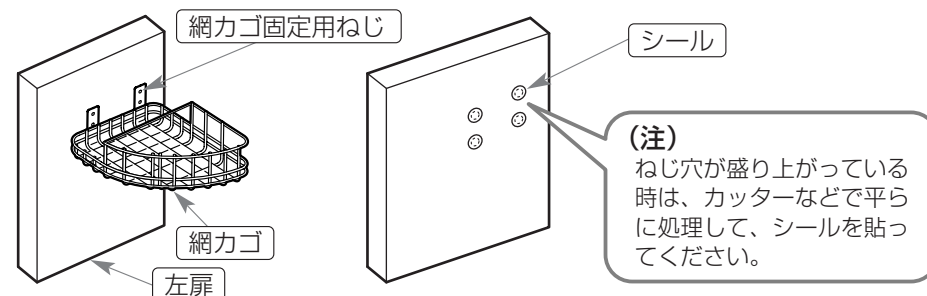
《取り付け方》

- ①丁番の固定ねじを外す。
- ②同梱のばね座金を取り付け固定ねじを締め付ける。
※洗面化粧台の右側に張り付けてある調整ラベルにしたがい、扉の調整を行ってください。



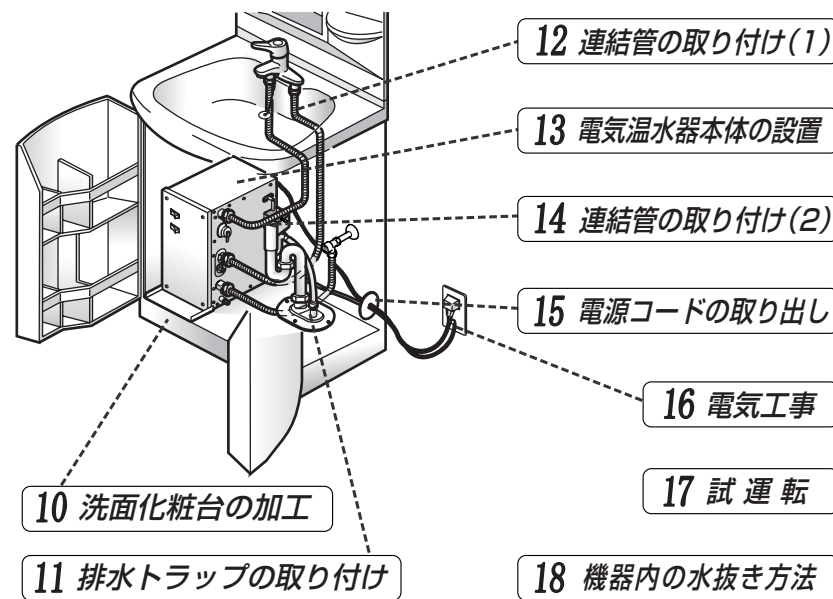
4) TOTOリモデアに湯ぽっとキットを取り付ける場合は下記内容に注意して取り付けてください。

- 給水圧力は0.1~0.75MPaです。
- 左扉裏面の網カゴを取り外してください。
※網カゴは付属部品ですので取り付けていない場合もあります。
- 網カゴを固定していたネジ穴には付属のシールを貼ってください。



9 施工図

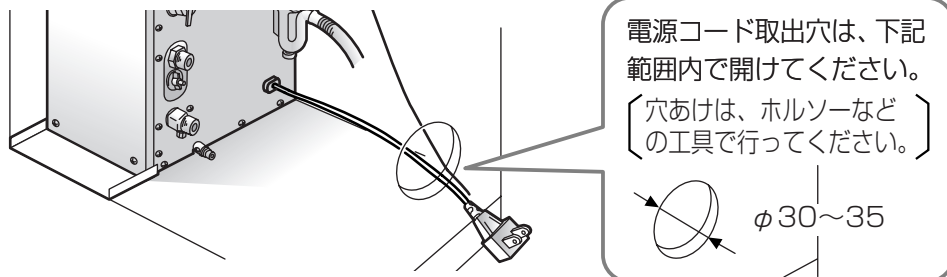
この施工図は、施工例です。
湯ぽっとキットの取り付けは、洗面化粧台により異なります。



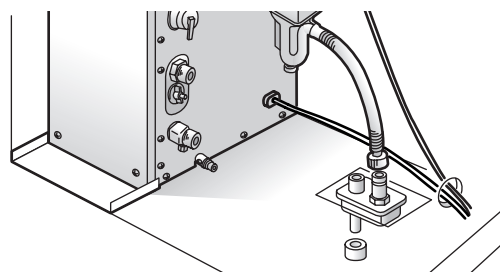
10 洗面化粧台の加工

1) 電源コード取出位置の確認および取出穴の加工

電気温水器本体を洗面化粧台に仮置きし、排水ソケットの取付方向および電源コードの取出位置を決定してください。

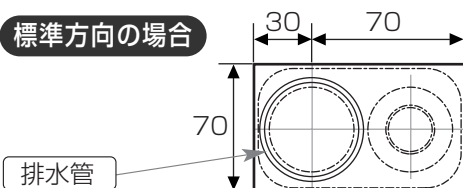


2) 排水ソケット取付方向の確認および取付穴の加工

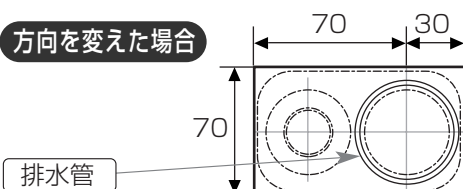


《取付穴寸法》

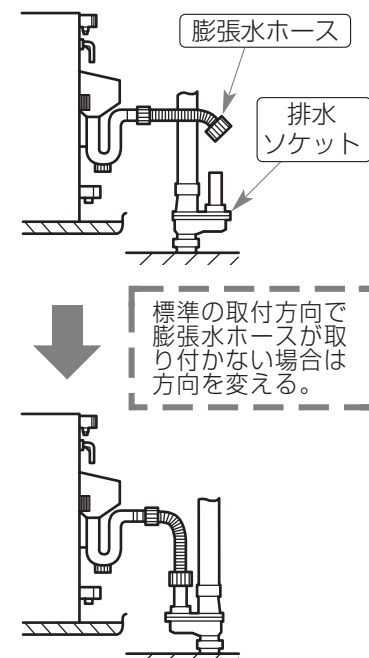
標準方向の場合



方向を変えた場合



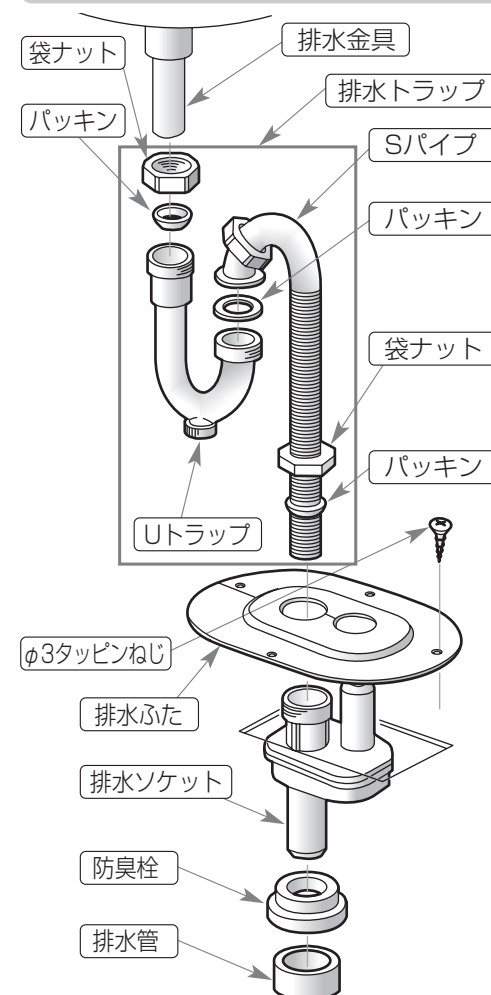
排水ソケットの取付方向を決め、取付穴の加工を行う



11 排水トラップの取り付け

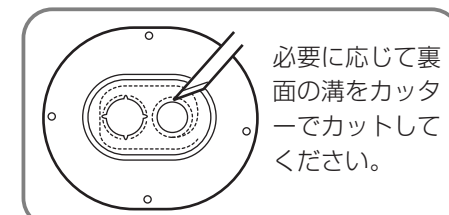
下記の手順で同梱の排水ソケットおよび排水トラップを取り付けてください。

TOTOの洗面化粧台（オーバルシリーズ以外）に取り付ける場合は、既設の排水トラップをそのまま使用してください。

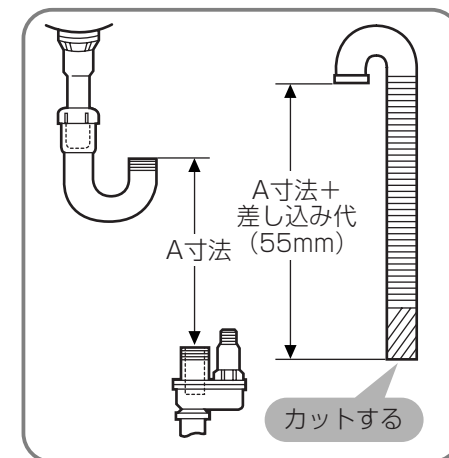


①防臭栓を排水ソケットに取り付け、排水管に差し込む。

②排水ふたを取り付ける。
(φ3タッピンねじ・4個)



③Uトラップを排水金具に取り付け、Uトラップと排水ソケット間の寸法を測定しSパイプをカットする。



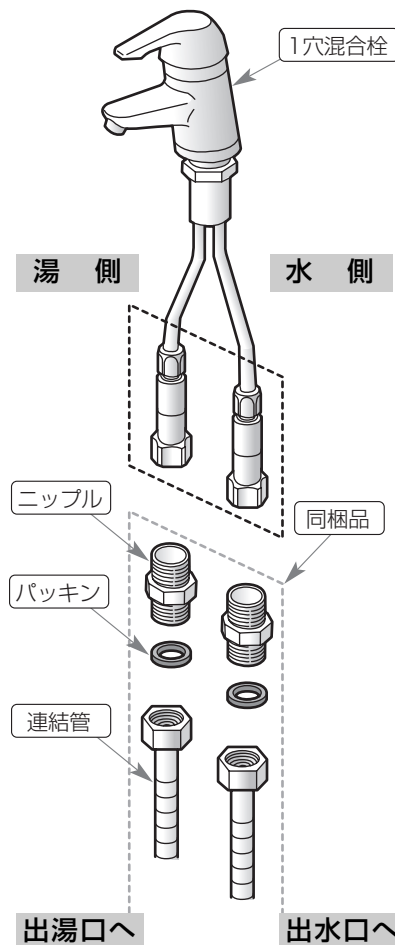
④Sパイプに袋ナットパッキンを入れ、Uトラップ、排水ソケットに取り付ける。
※排水金具が汚れている場合、タオルなどでよくふき取って取り付けてください。(水漏れの原因になります)

排水ふたのねじ固定ができない場合は、市販の両面テープなどで固定してください。

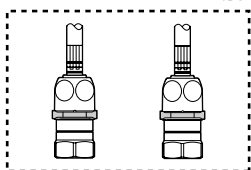
12 連結管の取り付け(1)

下図の要領で混合栓に連結管を取り付けてください。

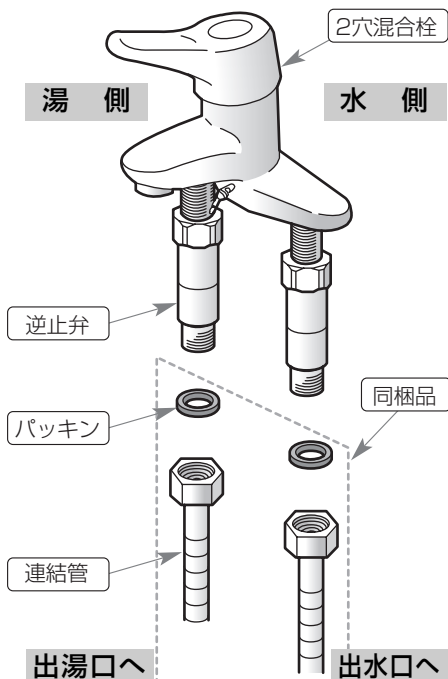
1穴混合栓に接続する場合



〈ワンタッチカブラの場合〉

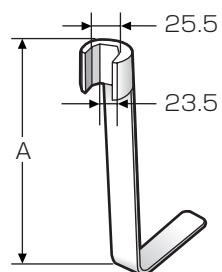


2穴混合栓に接続する場合



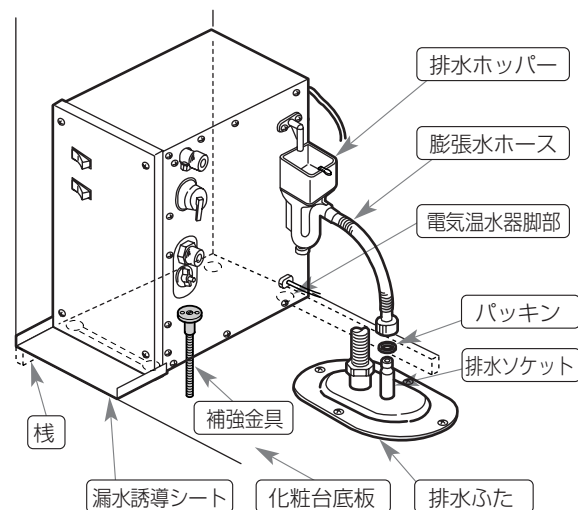
袋ナット締付専用治具(別売品)

TZ15L (A寸法: 300)
TZ15N (A寸法: 184.5)



13 電気温水器本体の設置

電気温水器本体を洗面化粧台に設置し、排水ホッパーの膨張水ホースを排水ソケットに接続してください。



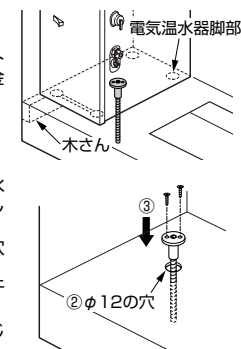
《漏水誘導シートの取り付け》

- 右図の線(矢印)に沿って漏水誘導シートを張り付けてください。
前
後
- 漏水誘導シートに張り付けてある両面テープで電気温水器の底面に漏水誘導シートを張り付けてください。
両面テープ
漏水誘導シート
- 化粧台底板より飛び出ている部分をハサミなどで切り除いてください。

《補強金具の取り付け》RE12SK・RE12SK1のみ

※洗面化粧台の底板の強度が十分でない場合は補強金具を取り付けてください。(補強金具一式については「2 部品の確認」にてご確認ください。)

- すりわり付き止めねじを、床からキャビネット底板の高さ(A寸法)より10mm短い長さで切断してください。
キャビネット底板
A
F.L.
すりわり面(切断禁止)
切断する
A-10mm
- 補強金具とすりわり付き止めねじをセットする。
すりわり面
ねじ込む
- 補強金具の取り付け
取り付け例
電気温水器を設置してキャビネット底板のたわみが大きい部分に補強金具を取り付けます。
補強金具の取り付け
①金具を取り付ける位置が電気温水器脚部と干渉しないことを確認してください。
②補強金具の取付位置にφ12の穴加工をしてください。このとき、穴がキャビネット底の木さんと干渉しないよう注意してください。
③穴に金具をセットしタッピンねじで底板に固定してください。
④すりわり付き止めねじが床に接するように高さを調節してください。



膨張水ホースは必ず接続口より下方になるようにする
(排水ホッパーから膨張水があふれ家屋に被害がおよぶおそれがあります。)

14 連結管の取り付け (2)



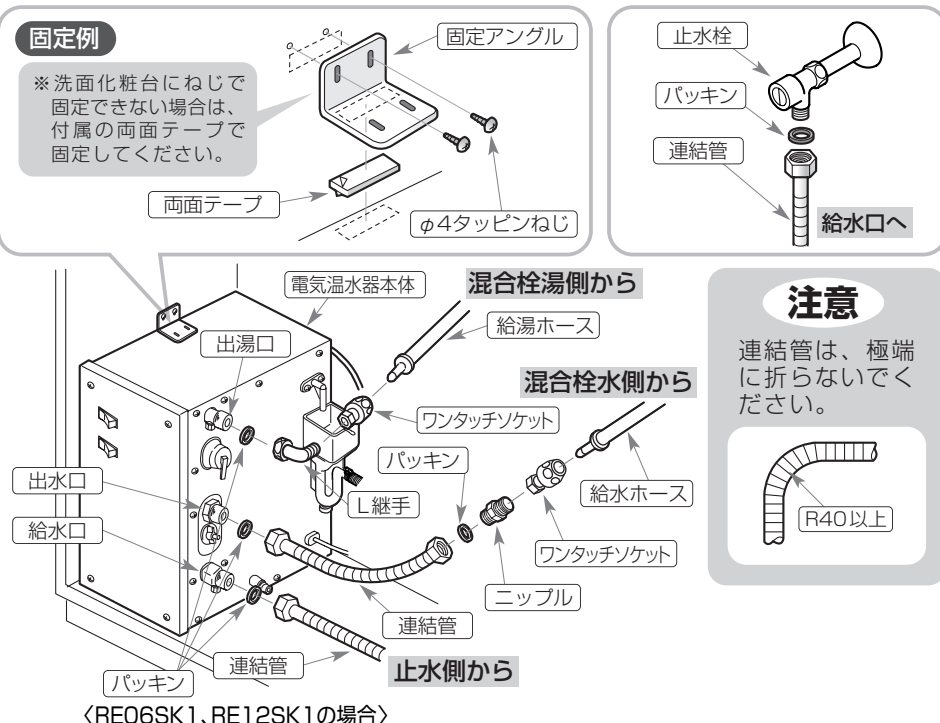
- 電気温水器と止水栓の接続はフレキ管を使用する。(銅管などで接続するとシール剤などが内部に入り作動不良を起こす場合があります。)
- 給水口に接続する前に必ず、配管内のゴミなどを取り除くため止水栓を開けバケツ2杯(約20L)程度の水を捨てる。(フィルターを通ったゴミが機器内に入り、故障や水漏れの原因となります。)

下図の要領で連結管を電気温水器本体および止水栓に取り付けてください。

※混合栓に接続した連結管は、あらかじめ曲げておくと取り付けが容易に行えます。

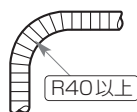
固定例

※洗面化粧台にねじで固定できない場合は、付属の両面テープで固定してください。



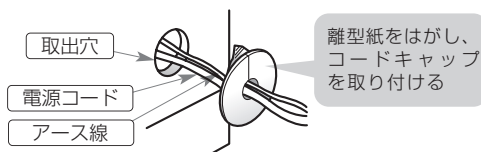
注意

連結管は、極端に折らないでください。



15 電源コードの取り出し

電源コードおよびアース線を洗面化粧台の穴から取り出し、同梱のコードキャップを取り付けてください。



16 電気工事



電気工事は、関連する法令、法規にしたがって必ず「有資格者(電気工事士)」が行い、アース(D種接地工事100Ω以下)工事を行う。

また、漏電遮断器を取り付ける。
(誤った工事を行うと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。)



消費電力、電源を銘板で確認し、必ずこれに適した配線を行う。
(火災の原因になります。)



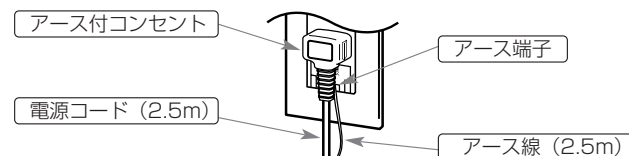
100V仕様の電気温水器に200Vの電圧をかけない。
(ヒーターの断線、火災の原因になります。)

1) コンセントの設置

- 電気温水器の消費電力は、RE06SKが600W、RE12SKが505Wです。容量が足りない場合は、専用のコンセントを設けてください。
- 電気温水器の電源コードの長さは、2.5mです。電源コードの届く範囲内に既設のコンセントがなければ、専用のコンセントを設けてください。

2) アース工事

- 電気温水器のアース線をアース端子に必ず接続してください。



17 試運転



タンクが空のときは絶対に電源プラグをコンセントに差し込まない。
(空焚きとなり故障・やけどの原因になります。)

1) 電気温水器への給水

①止水栓を開けてください。

※給水管に塩ビ管を使用している場合は、接着剤が完全に乾いてから通水してください。
(湯から臭いがするおそれがあります)

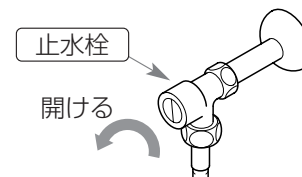
②混合栓の水側を閉め、湯側を全開にしてください。

(シングルレバー混合栓の場合は、レバーを湯側にしてください)

③混合栓から水が出ることを確認し、混合栓を閉めてください。

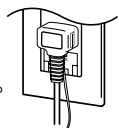
(タンクが満水になると混合栓から水がでます)

④配管接続部および排水トラップからの水漏れがないことを確認してください。



2) 電気温水器への通電

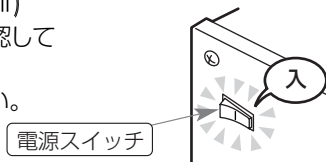
①電源プラグをコンセントに差し込んでください。



空焚き禁止

②電源スイッチを「入」にし、ランプが点灯することを確認してください。

③電源スイッチを「切」にし、電源コードを抜いてください。
(電源スイッチを「切」にするとランプは、消灯します)

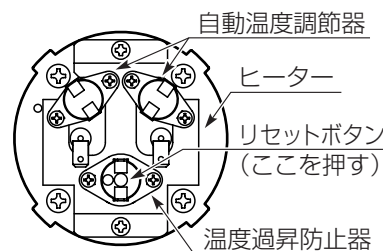


減圧弁、止水栓のフィルターにゴミが詰まると故障の原因になります。
試運転後、フィルターの掃除を行ってください。
(掃除の方法は、取扱説明書を参照してください)

※減圧弁・逃し弁は消耗部品です。劣化により機能の低下や水漏れする可能性があります。必ず定期的に交換するよう、お客様に説明してください。(交換のめやす：5年)

※万一空焚きした場合は、以下の手順で電気温水器内の温度過昇防止器のリセットボタンを押せば復帰します。

- ①電源スイッチを「切」にする。
- ②電源プラグを引き抜く。
- ③タンク内に水を入れて、タンクの温度を下げる。
- ④前面パネルを取り外し、右図のリセットボタンを押す。



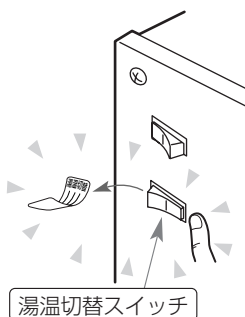
3) 沸き上がり温度の変更

約60℃設定の場合

初期設定は60℃となっています。湯温切替スイッチに張り付けてあるラベルをはがさずに、そのままお使いください。

約85℃設定の場合

湯温切替スイッチに張り付けてある湯温切替ラベルをはがして湯温切替スイッチを85℃に切り替えてください。



18 機器内の水抜き方法



凍結のおそれがある場合は、電源プラグを抜いてタンク内のお湯を抜く
(凍結により破損し、水漏れするおそれがあります。)

- ①電源スイッチを「切」にし、電源コードを抜いてください。
- ②混合栓の水側および湯側を開け、タンク内の湯を完全に出し切ってください。
注 タンク内に湯が残っているとやけどをするおそれがあります。
- ③止水栓を閉めてください。

- ④同梱の排水ホースを機器本体の排水栓に接続し、排水栓を開け、タンク内の水を抜いてください。

注 水を抜く際は、必ず受け皿などで受けてください。

【水抜き時間】

6L	12L
約6分	約12分

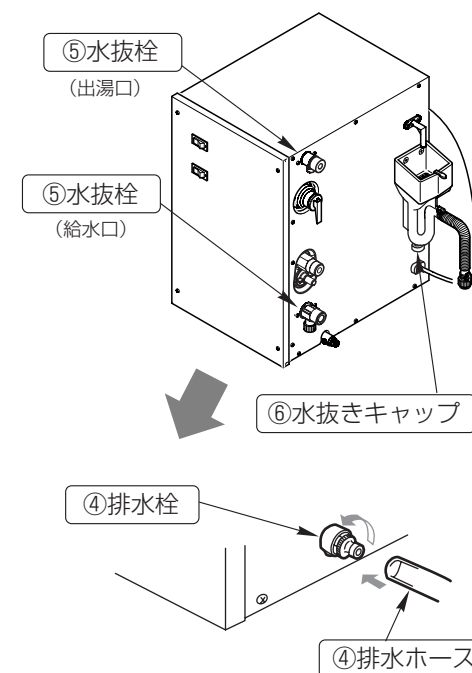
- ⑤出湯口の水抜き栓および給水口の水抜き栓を開け、連結管内の水を抜いてください。

注 水を抜く際は、必ず受け皿などで受けてください。

- ⑥排水ホッパーの水抜きキャップを外し、排水ホッパー内の水を抜いてください。

注 水を抜く際は、必ず受け皿などで受けてください。

- ⑦水抜きが完了したら機器本体の水抜き排水栓および排水ホッパーの水抜きキャップを閉めてください。



配管の凍結予防

- 電源スイッチが「入」の状態でも配管が凍結する場合は、必ず給水、出水、出湯側の各連結管と排水管に保温材または、ヒーターを巻いてください。